

みちしるべ

第150号

人権・同和問題啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議

出雲市同和教育研究指定事業の取組

市では、市内で地区同和教育推進協議会を指定し、当該地区内の幼稚園、保育所、小・中学校、コミュニティセンター等と連携を図りながら、「真に明るく住みよい民主的な社会の創造」をめざした地域ぐるみの同和教育を推進しています。

平成30年度・令和元年度に指定した地区の取組を紹介します。

○久木地区

〔活動テーマ〕
一人ひとりを大切に ふるさと久木
く見直そう 心の中の偏見・差別く

指定の前年度、従来の組織を見直し、より多くの方々への参画のもと取組をスタートしました。「地域研修部」「広報啓発部」「調査視察研究部」「学校教育部」の4つの専門部会を設置し、自治会や幼稚園、保育所、小・中学校のほか各種団体との連携を図りながら活動を進めてきました。

前年度に行った意識調査では、特に、同和問題の解決に対して「基本的な人権に関する問題だから、解決に努力するべきである」と回答した人が約4割。一方、「考えたことがない」「成り行きに任せるより仕方がない」等の消極的

な意見が4割を超え、今後の課題となりました。また、六曜については、迷信とは思いつつ周囲に流される傾向にあり、その割合は若年層にいくほど多いことが分かりました。

このような実態を踏まえ、自治会研修において講師には身の回りの人権問題や同和問題、六曜等の迷信を分かりやすく丁寧に話していただきました。研修後は、「先入観や固定観念は簡単になくなるものではないので、継続的にこのような研修が必要」等、肯定的な感想がほとんどでした。ただ、「寝た子は起こすな」といった同和問題に

する認識の甘さも少なからず見られ、くり返し研修を続けていくことの大切さを痛感しました。

その他の活動として、福山市のホロコースト記念館と人権平和資料館への視察研修、人権標語やポスターの募集、広報誌「そよかぜ」の発行等を行いました。

また、昨年の研究発表会では、公開授業と公開保育、全体会では地域や幼稚園、保育所、小・中学校の実践発表を行いました。その後、中村清志さんを講師に、「世の中には二種類の人間がいる」というお話を伺いました。この指定をきっかけに高まってきた人権を大事にする意識を今後につなげていきたいと思えます。



ホロコースト記念館



人権標語・ポスター



自治会研修

2年間の取組に対する所感

久木地区人権同和教育推進協議会
会長 竹下 優治

指定の前年度に行った意識調査では、出雲市と比較したとき、ほとんどの項目でデータ分析上、大きな差異はありませんでした。しかし、久木地区は、対象が50代60代の男性に偏ってしまったため、いくつかの項目では違いが見られました。プライバシー保護やインターネットによるいじめ問題などです。ただし、50代60代の男性を除いて比較すればほとんど同じであるという結果でした。一方、六曜に関しては、むしろ若年層にいくほど信じている割合が高いことが分かりました。このことは、どの年代でも研修は必要ということかと思えます。特に、若年層への啓発は、学校では六曜は扱っておらず、家庭・地域の役目であり、大きな課題と考えます。

また、「同和問題はそっとしておけば自然になくなる」と思っている人が意外と多いということが分かりました。それは、講師の話聞き終わった後で、そのような感想を聞くことがあったからです。知識としては理解できても、意識は簡単に変わらないようです。2年間の貴重な体験を今後の啓発活動に生かしていきたいと思えます。

〔活動テーマ〕
〇灘分地区 差別に気づき 人権を尊重する人づくり
〔灘分はひとつの家族〕

灘分地区は、平成30年度・令和元年度の出雲市同和教育研究指定事業を受けるにあたり、時間をかけて取り組む必要があると考えました。そこで、平成26年度から各町内の中心的活動をいただいている町内会長（34名）を対象とした研修会を、市の啓発指導員を招き、年2回実施してきました。灘分小学校では、平成18年度より『地区の同和教育の発信の中心は小学校の役割が大きい』ということから、毎年12月に灘分地区同和教育推進協議会との共催で「人権・同和教育講演会」を実施してきました。親子共通の取組は、大きな成果があったと考えています。

また、指定年度に入る前に、早めに灘分の実態を把握する必要があります。平成28年2月に20歳以上の悉皆意識調査を実施しました。これは、アンケートの項目を通して、今、何が人権・同和教育の課題となっているかに気づいていただくために必要だと考えました。

この調査と出雲市の調査と

の比較から、「無回答」「わからない」といった答えが多く、まずは、人権・同和教育の解決には「気づき」が大切であると考えました。そこで、平成30年度から「差別に気づき、人権を尊重する人づくり」という活動テーマを掲げ、長年、灘分の地域テーマとしてきた「灘分はひとつの家族」をサブテーマとしました。

推進組織として、実行委員会を立ち上げ、「地域研修部」「調査研究部」「広報啓発部」「学校教育部」の4つの部門で取り組んできました。

また、令和元年7月には、第2回目の意識調査を実施しました。前回の灘分の調査との比較、出雲市との比較の両方を検討し、成果と今後の課題をある程度把握できたと思えます。

私たちは、指定の2年間は地域をあげて取り組みましたが、この調査結果を生かし、地域にとってどのような方法が適しているか、今後も検討し実施する必要があると痛感しました。



地域研修会



研究発表会



人権・同和教育授業

2年間の取組に対する所感

灘分地区人権同和教育推進協議会
 会長 三成 重雄

平成30年・令和元年と奇しくも年号を跨ぐこととなった2年間の研究指定事業を受け、灘分地区の皆さまのご理解とご協力により順調に取り組むことができました。特に、各種団体を中心に研修会を開催できたことは、灘分地域がまとまるのに有効でした。また、平成26年から早めに取り組んでできたことは、地域の皆さんの意識高場につながりました。

平成28年と令和元年の2度の意識調査の結果から、灘分地区住民の人権問題に対する意識は前回の調査より高く、向上が見られたと思われまます。一方で「結婚にかかわる差別意識」「身元調査」「同和教育を解決するための行動」については一部の意見として認識が浅く、今後の課題として地道な取組をしなければならぬと感じました。

学校教育部門では、向陽中学校、灘分小学校、認定こども園光幼保育園それぞれが積極的に取り組まれ、人権・同和教育に対する意識高場に大きな成果をもたらしました。

今後も地域、学校関係ともつながりを一層深め、人権・同和教育解決のための活動を進めていきたいと思います。

令和元年度・2年度の研究指定を受けている庄原地区及び久多美地区では、現在さまざまな取組が行われています。指定2年目となる今年度、これらの取組の成果等について、発表会が下記のとおり予定されています。

- 〇庄原地区人権・同和教育推進協議会
 とき 12月5日(土) 主会場 斐川文化会館
- 〇久多美地区人権・同和教育推進協議会
 とき 11月28日(土) 主会場 さくら小学校

同和教育は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、すべての人々の人権を尊重する取組です。今回紹介した研究指定を受けた地区だけでなく、研究指定を受けていない地区でも、さまざまな取組が行われています。皆さんも積極的にご参加ください。